

お墓

お墓参りができない！
墓じまい、どうするの？
お墓の後継ぎがない!?

お墓の悩みを
サクッと解決

の悩み

なくなりました！



お墓の悩み**解決**ガイドブック
無料プレゼント！



「勉強になった」
「実用的」の声、多数！

お墓の悩みカウンセラー
豊田雅浩

はじめに

ワタシはなんて薄情な人間なんだ！

親孝行もろくにできなかつたのに、最近はお墓参りにも行ってない！

お墓は荒れ放題かもしれないけど、仕方ないんだよ、遠いから！

でも、毎年お墓参りには行きたいなあ！

もしそんな思いがあるのなら、このガイドブックはあなたの悩みを解決できます。

ここで少し私の知人の話を聞いてください。

先日、知人の横山さんが墓じまいをしました。

横山さんは、千葉県に住んでいますが、実家のお墓は埼玉県にあります。

横山さんは大手航空会社を勤め上げ、定年退職後は年金と英語教師のアルバイトで

悠々自適に暮らしている 75 歳です。

奥様は横山さんが定年退職後、念願だった喫茶店を開業して、自由な老後を送って

いる 72 歳です。

しかし、横山さんご夫婦には悩みがありました。

それは・・・何年もお墓参りに行けていないことでした。

お墓にはご両親など6柱の遺骨が眠っています。

横山さんは、思い切って墓じまいをして、住まいの近くの市営霊園の納骨堂で永代供養にしようと考えていました。

しかし、横山さんは悩んでいました。

「墓じまい」って、先祖不孝にならないか？ バチが当たるのでは？と・・・

先祖代々のお墓がなくなると、供養の対象がなくなってしまうのでは？と・・・

それは先祖を蔑ろにする行いではないのか？と・・・

しかし、このままでは誰もお墓参りに行けなくて、お墓は荒れ放題になってしま
う。その方がよほど不孝な事ではないのか？と・・・

横山さんは菩提寺の住職とお寺に隣接する今の霊園に相談しました。

霊園からは樹木葬を勧められたそうです。

しかし、すべての費用が280万円ほどかかるといわれたそうです。

老後資金からは、そんなに払えません。

それに樹木葬も結局、そこに行かなければお参りできないし、だったら今と変わらない。ただそこにお骨があるだけ。

そして最後は永代供養として埋葬されるなら、市営霊園の納骨堂と同じだ。

ご先祖を身近に感じることはできない。

と横山さんは思いました。

横山さんは悩んでいました。

どうすれば、自分に合った先祖供養ができるのか？と・・・

ある方の紹介で石材店の会長でお寺の住職でもある、斎藤さんを紹介されました。

横山さんは斎藤会長に相談しました。

どうすれば先祖不孝にならず、お参りもできて、ご先祖を身近に感じる事ができるのか？と・・・

悩みと先祖供養に対する想いのたけをぶちまけました。

会長は言いました。

「あなたの気持ちはご先祖様には通じています。」

「あなたがそれほどまでにご先祖様の事を想っていることは、きっとご先祖様には、その想いは届いています。」

「あなたの思うままにすればいい。」

「私はあなたがやりたいこと、どんなことでも手助けをします。」と・・・

横山さんは救われた思いがしたと、言っていました。

横山さんは墓じまいをし、お骨を市営霊園の納骨堂に埋葬することと、両親の遺骨は一部を分骨して手元供養にすることを選びました。

誰しも現実と想いの狭間でジレンマに悩むのは仕方のない事です。

でも、解決できる道は必ずあります。



悩んでいませんか？「お墓を何とかしなきゃ！」って

お墓参りもずいぶん久しく行けてないなあ・・・

お墓の掃除もしてないし、もしかして荒れ放題になっているかもしれない・・・

でも、遠いから何かのついでじゃないと行けないし・・・

宗教や信仰には興味はないけど、ご先祖孝行したい気持ちはあるんだよなあ。

そんな切ない悩みを抱えているのはあなただけではありません。

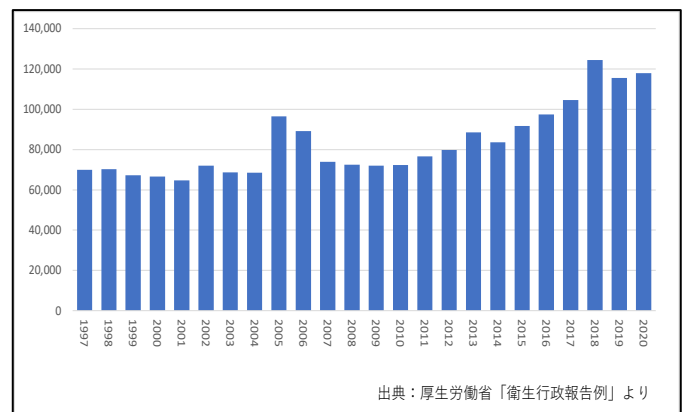
多くの人は、ご先祖様を身近に感じ、きちんとご供養したいと思っています。

でも今の状態のままだと、お盆やお彼岸のお墓参りにも満足に行けない・・・。

ところで、「改葬」や「墓じまい」と
いった言葉を聞いたことはありません
か？

数年前から、お墓の引越しや整理につい
て、悩みや問題が持ち上がり、ネガティ
ブな話題が盛り上がっています。

お墓を処分したり移したりする「改葬」の件数



2005～06年を除き改葬の件数は年々少しずつ増加し、
2017年には10万件を突破しました

その背景には、団塊の世代（1947～49年生まれ）のライフステージの変化があります。

あなたにも覚えはありませんか・・・？

気が付くと、会社勤めや育児も一段落し、「今まで放っておいた家のお墓をどうしよう？」といった問題が急に現実的になってきたり、両親との死別を経験し、家のお墓の後継ぎについてどうすればいいかと心配になったり・・・。

実はそんな悩みに気づいた人がたくさんいます。

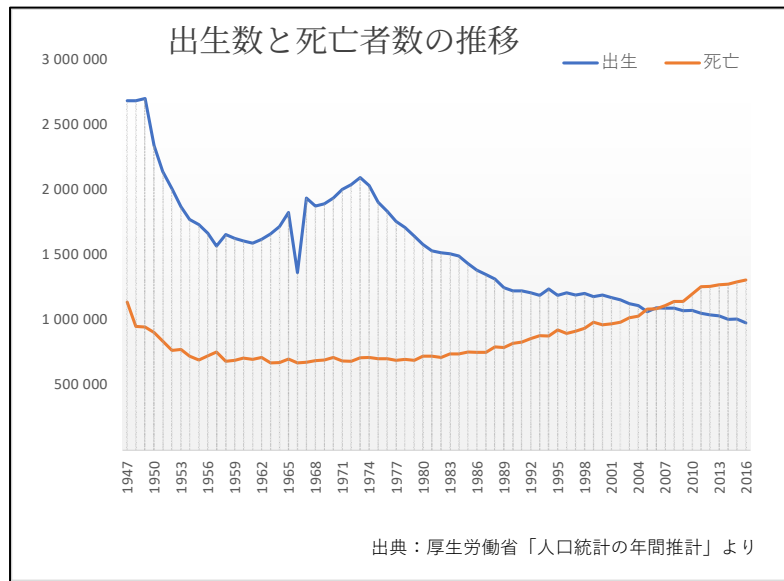
つまり、「家のお墓をどうにかしなきゃ！」という問題が精神的に重くのしかかっているんです。

さらに、子どもたちへの引継にも不安も感じていませんか？

実家やお墓を継いでくれる跡取りがいなかったり、いても継ぐのが難しいといった具合です。



お墓も供養の仕方も「今風」に変わる？



少子高齢化の影響で、「多死社会」が到来し、葬送スタイルが変化しています。

厚生労働省によると、2005年に出生者数を死亡者数が初めて上回りました。

しかし、問題はそれだけではありません。いざ、お墓のこととなると、単に引き継ぐだけではないんです。

というのも次のような、いろいろな問題があるんです。

- 子どもや家族にお墓の面倒を掛けたくない
- お墓が離れた場所にあり、お墓参りがほとんどできない
- 自分の後には管理する人がいない
- お墓にかかる経費が負担になる

しかし最近では、承継を前提としないタイプのお墓として「樹木葬」や「納骨堂」などの合葬タイプのお墓や、遺骨を自宅に置き続ける「手元供養」、あるいは「散骨」といった「墓なし」供養が注目されてきています。

お墓や供養の仕方も時代に合わせて変化してきています。

お寺による檀家制度は、江戸時代に一般化され、現在の『〇〇家のお墓』という形式は、主に明治時代以降に確立されました。また、火葬は明治時代初期にコレラが蔓延してからですし、火葬が普及したのは戦後になってからです。というように現在の供養の仕方も、時代に合わせて変化してきたんです。

「墓なし」供養って、、、どういうこと？

最近では、どれだけ安くても墓地は買わないという人が増えてきました。

粉末化した遺骨を海にまく「海洋散骨」や自然に還る「樹木葬」、さらに「宇宙葬」や、AR技術を利用した「架空葬」といったものまで出てきました。

では、変化するこれからのお墓や供養の仕方はどう選べばいいのでしょうか？

残された遺族にとっては、手を合わせる対象物が必要かどうかというのが、ひとつの選択基準になります。

当事者が「お墓なんかいらない、海に散骨してくれ！」と言っても、残された遺族は墓前で手を合わせたいという人も少なからずいるのが現実です。

長期間にわたって遺骨を供養してもらえる永代供養というシステムがあるのはご存じですよ。

この永代供養で現在注目されているのが、マンションのような納骨堂や樹木葬です。

樹木葬とは墓石の代わりに、祈る対象物として木を植えて、その周辺に遺骨を埋蔵します。

しかし、自分の木がどの木なのかわからなくなったり、合葬納骨の場合、遺骨の数が一定数にならないと納骨されないといった問題もあるようです。

そこで最近注目されているのが、「手元供養」です。

「手元供養」とは、故人を身近に感じたいという遺族の思いを形にしたものです。遺骨を骨壺に入れたまま自宅に安置する以外にも、遺骨を粉骨してジュエリーなどに収納して身につけるものや自宅に小さな祭壇や墓石を設置して、遺骨を安置するといったものなどがあります。

お墓の問題といっても十人十色、100人いれば100通りの事情があり、問題があります。

でも、安心してください必ず納得し、解決できる最善の方法はあります。

1. 時代とともにお墓の形も変わっていきます

価値観とニーズが細分化するのに伴って、お墓のあり方や形も変化しています。

あなたが「どんなお墓を求めているか？」が重要です！

- かつて高度成長時代には、故郷を離れて都会に出ていく人が増え、核家族化が進むと郊外型の大規模な霊園が開発されましたが、次第に郊外型霊園は「近くて遠い」存在となり、お墓参りに行く機会が減ってしまいました。
- そこで登場したのが都市部にたつビル型の納骨堂です。そして、東日本大震災以降終活ブームが起きたことで、価値観やニーズがどんどん細分化し、お墓も樹木葬や散骨など、次々と新しい形やあり方が生まれました。

- また、新型コロナの蔓延により、外出する機会が減り遠くへ出かける動機も減退しているのが現状です。その結果、お墓参りに行けないという結果になっています。

しかし、あなたもお墓を持ち、死後はそこで安らかな眠りにつきたいという気持ちやご先祖様に対する供養心までは消え去ってはいませんよね。

2. お墓の悩みは大きく分けて3種類しかない！

① お墓参りに行きたくてもいけない

就職などで実家のある故郷から都会に出てきて、今の住まいに定住したという方も多いのではないのでしょうか？

独身の時や若い時には故郷の友達や親兄弟に会うために、お正月やお盆など、年に2回は帰省していたことでしょう。

また、子どもが小さい時は両親の喜ぶ顔が見たくて、孫の顔を見せに帰省したことでしょう。

しかし、子どもも大きくなり、自分たちの予定を優先するようになると、なかなか家族そろって帰省できなくなりますよね。

そうこうしているうちに両親のどちらかの具合が悪くなり、お見舞いなどで帰省する機会が増えてきたりします。

あとは親戚縁者が集まっての冠婚葬祭や法事などの行事がある時くらいしか帰省しなくなります。

また、帰省した際には必ずお墓参りに行っていたのに、交通機関の発達で日帰りができてしまうようになると、お墓参りにも行かずにとんぼ返りなんてこともよくある話です。

そして、次第にあなたも年をとり、帰省するにも理由がなくなり、また体力的にもおっくうになって、帰省の機会が減りお墓参りに行くこともなかなかできにくい状態になってきます。

また、高度成長期に郊外に建てたお墓に、年を取ってからは、なかなか行けないし、子どもたちも遠くに暮らしていると、一緒にお墓参りに行くことも

なくなってしまったなんていうこともよく聞く話です。

しかし、先祖代々のお墓を残したいと思う気持ちもわかります。

解決策 → 改葬（お墓の引越し）して、自宅の近くにお墓を移す。

② 今のお墓を整理したいし、これからもお墓はいらない

もう両親も他界して、故郷にお墓があっても誰も継いでくれる人はいない

し、あなたも故郷のお墓にお参りすることもできない。

仮にあなたがお墓を継いでも、子や孫の代になると継いでくれるのかわからない。

むしろ、子や孫にはそんな面倒はかけたくない。

ならば、いっそのことお墓を断捨離したい。

そう思っている人も多いのではないのでしょうか？

あなたはどうでしょう？

お墓を整理するとバチが当たると思っていますか？

ご先祖様に対し不孝な事で心苦しいですか？

お墓を整理しても、ご先祖様の不孝にはならない方法もあります。

それは永代供養です。

要はあなたがどう考えるかです。

あなた自身がどう供養してもらいたいかが一番大事で、ご先祖様も同じようにご供養してあげれば、ご先祖様も喜んでくれると信じることです。

解決策 → 「墓じまい」して、永代供養でお祀りをする。

③ 死後は自由になりたい

昔は嫁いたら死後は嫁ぎ先のお墓に葬られるのが当たり前でした。

しかし、最近では「今までさんざん尽くしてきたのだから、死後は自由になりたい」と願う主婦の方も増えています。

また、故石原慎太郎さんのように、海が好きだから「俺が死んだら、骨は海に撒いてくれ」と海洋散骨を希望される方や登山が趣味で大好きな山の頂から散骨してほしいと生前に遺言される方もいらっしゃいます。

終活ブームで、生前に自分の死後、お骨をどうするかを決めている方も最近
は増えてきました。

例えば、死後「自分のお骨をこれに納めて自宅に飾ってほしい」と、子ども
に生前からエンディングノートなどに書き記したり、手元供養のための供養
物を事前に買い求める方もいらっしゃいます。

解決策 → 散骨（永代供養）、手元供養

3. 変わるお墓の形

① 永代供養

永代供養のお墓は、承継者がいないというのが特徴です。

子供のいないご夫婦や独り身の人に多く利用されてきました。

しかし最近では、子どもはいるけど、死後に負担を掛けたくないという人が
あえて選ぶケースもあります。

また、子どもが海外に永住したり、子どもが結婚やその他の理由で、改宗し

て、信仰が異なるなどの理由で永代供養を選ぶケースもあります。

永代供養は死後に供養の心配がいらぬというメリットがありますが、いったん合葬（遺骨を骨壺から取り出され、大きめの合同スペースに他の人の遺骨とともに納められます）されると遺骨は二度と取り出すことはできないというデメリットもあります。

② 納骨堂

敷地が狭く広いスペースが確保できない都市部などに多く見られるマンション型（ロッカー型）のお墓です。

室内に設置され、遺骨を土に埋めないのが最大の特徴になっています。

最初は個別に収蔵・供養されますが、契約期間の終了後（または契約を更新しない場合）は永代供養として合葬されるケースが多いです。

合葬されるまでは遺骨は納骨堂で収蔵・供養されていますので、後に建墓して一般墓に納骨することもできますが、通常は合葬されることが多いです。

デメリットとしてはお参りの仕方に、その納骨堂のルールに従う必要があっ

たり、お彼岸やお盆の時は込み合っ待たされることもあります。

また、無機質な造りのところが多く、荘厳な雰囲気は感じにくくなっているところが多いようです。

さらに最近の札幌市の事例のように、民営の納骨堂が経営破綻するというような事件も発生したりしています。

納骨堂を選ぶ際には、運営母体や経営状態を十分吟味したうえで、選ばないと後で後悔することになります。

③ 樹木葬

樹木葬は近年人気を集めている埋葬方法です。

墓石を建てる代わりに樹木や草花を墓標とすることから「死後は自然に還りたい」と願う自然派志向の人に人気です。

樹木葬は墓地として承認された土地に遺骨を埋めるもので、れっきとしたお墓です。

樹木葬墓のほとんどは、最初から合葬されたり、一定期間置いた後合葬される永代供養タイプです。

しかし近年代々引き継ぐことができる、承継タイプのものもみられるようになってきています。

樹木葬は墓石を建てない分、費用は安めですが、郊外にある事が多く、アクセスが悪くなかったり、結局はその場所に行かないとお参りできないといった不都合があります。

そもそもお墓参りができないことが悩みであれば、樹木葬では解決できません。

④ 散骨

自然に還る、あるいは自然に寄り添うことに重きを置いて、遺骨を海や山などにまくのが「散骨」です。

以前は死体遺棄罪になるのでは、との疑念がありましたが、1990年に法務省から、「節度をもって葬送の一部として行われる限り問題はない」との見解が出されました。

しかし、自治体によっては散骨を禁止している自治体もあるので、注意が必要です。

また、合法と決定したわけではないので、誰でもどこでも散骨はできませんし、違法となることもある**グレーな方法**であることも忘れないでください。

散骨する場合はきちんとした実績のある専門の散骨業者に依頼するのが最も安全です。

散骨のデメリットは、散骨後に遺骨がないことで、供養の対象がなく残された遺族は「どこに手を合わせていいのか」と悔やむことになるかもしれません。そうならないためには、大部分は散骨しても、一部を残し手元供養などで供養できるようにしておくことをお勧めします。

⑤ 手元供養

故人を身近に感じていたい。

お墓参りに行けなくても、故人がいつもそばにいて、お参りできる。

散骨や永代供養の合葬の後でも、一部を手元供養として自宅にお祀りしておけば、いつでも、毎日でもお墓参りができる。

手元供養にはオブジェタイプや仏壇タイプ、墓石タイプ、ペンダントタイプなどいろいろな形があります。

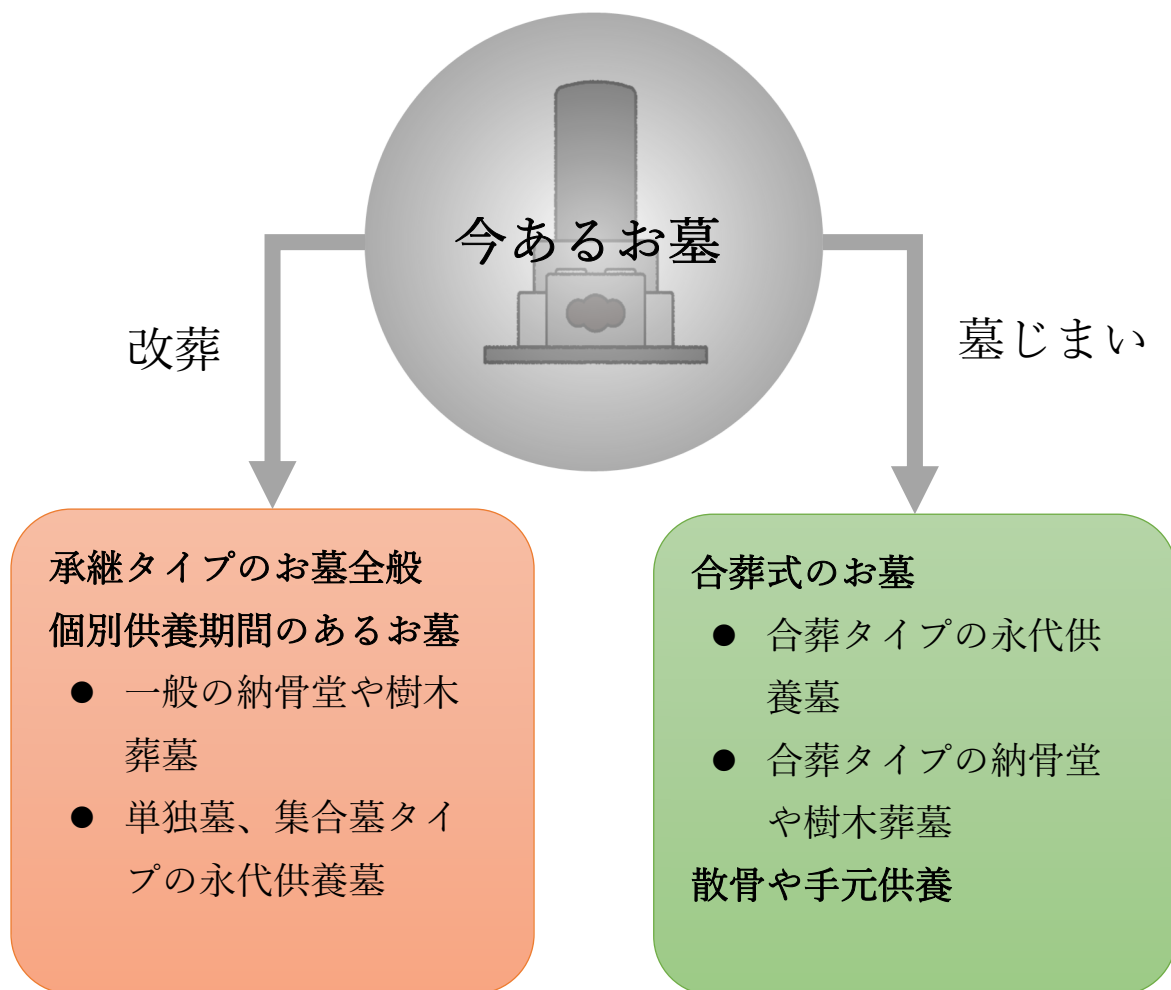
あなたの好み、予算、どこに置くかなど、自由に選べます。

4. 墓じまいと改葬の違いって何？

墓じまいとは、**墓地の権利を墓地管理者に返還**するために、墓石の撤去・処分をして遺骨を別の場所に移すことです。つまり、今あるお墓を片付け、取り出した遺骨を合葬タイプの永代供養墓に移すのが「墓じまい」です。

改葬は墓じまいとプロセスは同じなのですが、永代供養にしても合葬墓ではなく承継タイプのお墓に引っ越しすることです。

法律上は、墓じまいも改葬として扱われます。



5. お墓の整理って何から始めればいいのか？

① 相談・話し合い

まずは何をおいても家族、親族との相談・話し合いが最優先です。

ちゃんとお墓の整理したい意向と理由を理解してもらい、その後のことも含めて納得してもらう必要があります。

そうしないと後々、トラブルになります。

合葬墓に移して他人の遺骨と一緒にすることは、ご先祖様を粗末に扱われているように思えて、納得できないという人も多くいらっしゃいます。

ご先祖様や親のお墓を移す場合には、親戚や兄弟・姉妹に丁寧に説明し、了承を得ておくことが大切です。

親戚や兄弟・姉妹とのトラブルは避けましょう。お墓探しよりも相談を先にして、改葬の理由や事情を示しながら、丁寧に話し合いましょう。

② 親族との話し合いのポイント

1. 改葬の理由を共有しましょう。

承継者がいない、遠くてなかなかお参りができない、住まいの近くで手厚く供養したいなど、理由を明確に。

2. 誰の遺骨を引っ越しさせるか？

遺骨のすべてなのか、誰か特定の遺骨なのかによっても、親族の気持ちはずいぶんとかわります。

3. 改葬先をどうするか？

- ・ お墓を新たに建てるのか？お墓を持たないのか？
- ・ 承継タイプか？永代供養タイプか？
- ・ 永代供養でも、一定の個別供養期間があるタイプか？
- ・ 墓所の形態は？（一般墓、納骨堂、樹木葬など）

③ まずは自分のお墓のあり方を決めましょう

【「誰と」お墓に眠りたい？】

1. ご先祖と？
2. 親と？
3. 配偶者、パートナーと？
4. いずれ家族に囲まれて

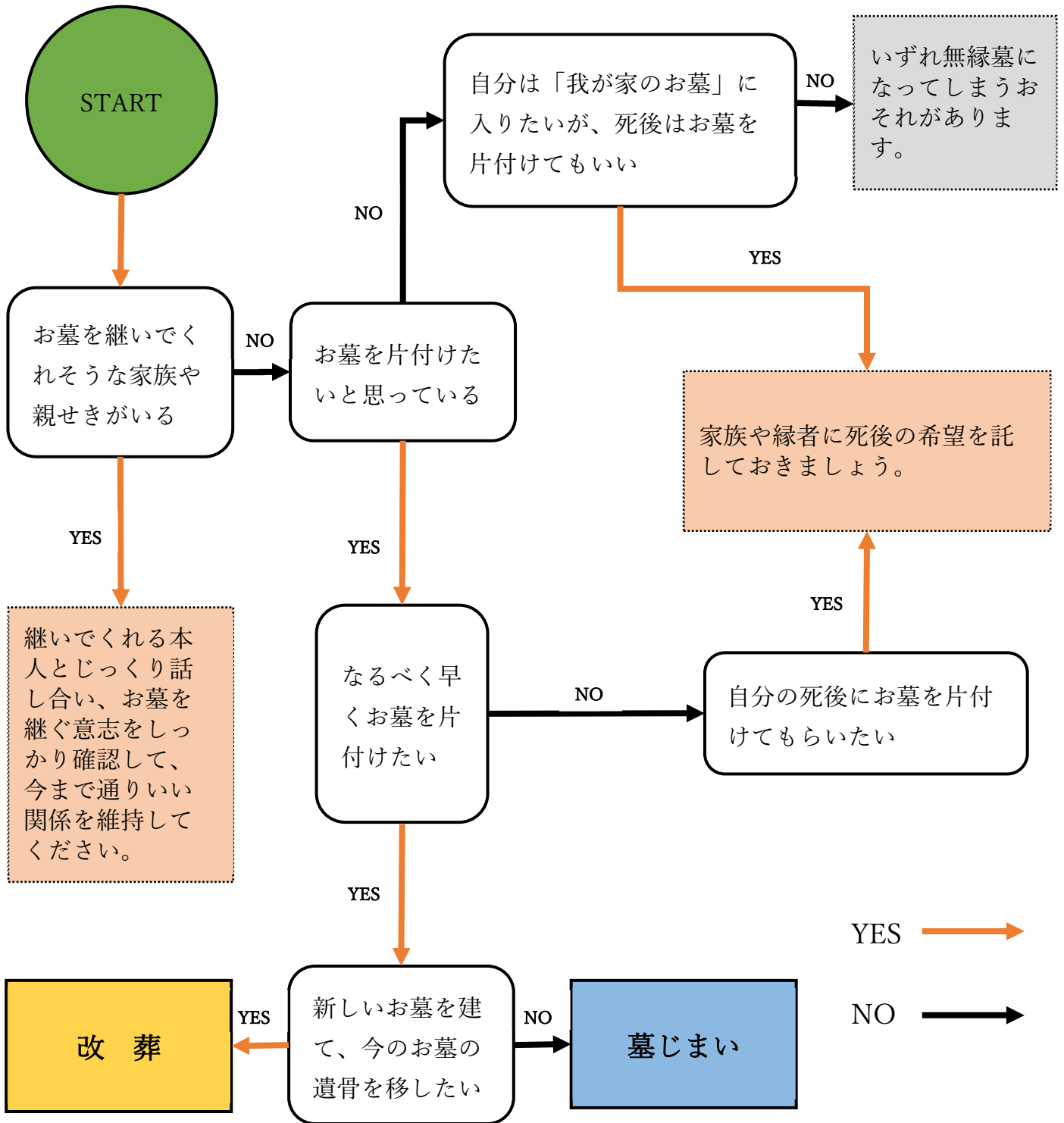
5. ひとり気楽に
6. お墓はいらない
7. その他

【「どんな供養」を望む？】

- ✓ できるだけお墓参りや回忌法要をしてほしい
- ✓ ある程度の回忌までは法要をしてほしい（○回忌）
- ✓ 家族のそばに遺骨を置いて、日々偲んでほしい
- ✓ 命日などに時々思い出してもらえればいい
- ✓ 「去る者は日日に疎し」と自分のことは忘れてくれ
- ✓ 供養は残された側の気持ちなので、家族に任せる
- ✓ その他



④ 自分に合ったお墓整理のフローチャート



6. 自分に合ったお墓の整理とは・・・

● お墓参りに行きたくてもいけない場合

▶ お墓の後継ぎがいる

- ◇ 今のお墓はそのままで、移したい遺骨のみ分骨して、改葬するか、または手元供養として家の中でお祀りする。

▶ お墓の後継ぎがいない

◇ 改葬する

- ・ 新しいお墓（一般墓や樹木葬墓）を住まいの近くに建立して、全ての遺骨を引っ越しする。

◇ 墓じまいする

- ・ 今のお墓を整理して、納骨堂や樹木葬墓などに永代供養として埋葬する。
- ・ 納骨堂に埋葬してしまうと、2度と取り出すことができないことに不安を感じるのであれば、納骨堂に埋葬する際に、一部を分骨して、手元供養として家の中でお祀りすることで、故人を身近に感じることもできます。

● 今のお墓を整理したいし、これからもお墓はிரない場合

➤ 墓じまいして、遺骨は納骨堂などに埋葬する。

◇ 故人を身近に感じたいときは、納骨堂に埋葬する際に、一部を分骨して、手元供養として家の中でお祀りする。

➤ 墓じまいして、遺骨は散骨（海洋散骨など）する。

◇ 故人を身近に感じたいときは、散骨する際に、一部を分骨して、手元供養として家の中でお祀りする。

● 死後は自由になりたい。

➤ 納骨堂などで永代供養にする、もしくは散骨する。

◇ 遺族が故人を身近に感じたいときは、納骨堂に埋葬または散骨する際に、一部を分骨して、手元供養として家の中でお祀りする。



7. 墓じまいの注意点

墓じまいの場合、遺骨の引っ越し先は「合葬墓」。後々悔やむ人も少なくないため、慎重な判断と、家族・親族の同意がとても大切です。

- 墓じまいの場合も、基本的な手順と手続きは改葬の場合と同じ。
違いは、永代供養タイプのお墓探しが出発点となることです。
- 永代供養タイプは大きく分けて3種類あり（単独墓、合葬墓、集合墓）、基本的に墓じまいにあたるものは、「個別のお墓」を持たない合葬墓を選んだ場合だけです。
- 合葬墓には一般的な野外タイプのものもあれば、納骨堂スタイルや樹木葬スタイルのものもあります。
- また、手元供養や散骨など、お墓そのものを持たない弔い方もあります。

おわりに

お墓にまつわる悩みは非常にデリケートな問題ですよ。

先祖代々脈々と受け継がれてきた伝統や血脈に関する一大事です。

私の両親はすでに他界しています。

お墓は故郷の徳島にあります。

本来は長男である私がお墓を守っていかなければならないのですが、すでに千葉県に住まいを構え、生活基盤は関東にあります。

なので、今は姉がお墓の管理をしてくれています。

しかし、いずれは「家のお墓」をどうにかしなければいけないとも思っています。

私の「家のお墓」には両親を含め、8柱の遺骨が眠っています。

私もゆくゆくは「墓じまい」をして、先祖の遺骨を永代供養にしようと思っていますが、合葬することに多少迷っているところもあります。

というのも、合葬してしまえばもう2度と遺骨を取り出すこともできなくなり、これでご先祖とも永遠の別れになってしまう・・・

縁が完全に切れてしまうような切ない想いと、先祖不孝になってしまう後ろめたさがあるからです。

そこで私は横山さんにおすすめしたように、遺骨を分骨して手元供養として自宅に飾ろうと思っています。

そうすればいつでも、いつまでも両親や祖父母やご先祖を身近に感じていることができるからです。

そのためには、早い段階で姉や残された親族と話し合いをして、「墓じまい」することを納得してもらう必要がある事も十分わかっています。

そうです。

「墓じまい」や「改葬」となると、あなた一人の問題ではありません。

パートナーや子や孫、親族など多くの方々の問題です。

後々トラブルを引き起こさないためにも、事前に話し合いをもって、十分納得を得たうえで決断すべきです。

お墓を承継するのは長男と決まっているわけではありません。

承継できる人がいるなら、できれば今のお墓を残し、ご先祖さまには手厚いご供養を心がけるのが一番です。

しかし、いろいろな事情で仕方なく墓じまいや改葬をしなくてはいけないこともあります。

そんな時は一人で悩まないでください。

家族や親族と相談することも非常に重要ですが、第三者に相談することで、もやもやが解消されることもあります。

墓じまいや手元供養について、個別に無料相談をお受けします。

疑問や不安、何なりと仰ってください。

親切、丁寧にお応えさせていただきます。

まずは、お気軽にメールでご連絡ください。

一人で悩まないでください！

info@ohaka-no-nayami.jp

お墓の悩みカウンセラー

豊田雅浩まで

